

私たちの1日に潜む危険

1. 本時の目標

自分の行動パターンを分析し、生活の中にもどのような危険があるか自ら探し出し、それらの危険に備える心構えをもつことができる。

2. 準備する物

防災ガイド、ワークシート。(教師用サイトでダウンロードできます。)

3. 本時の流れ

平日はほとんど学校にいることから地震発生時、学校に潜む危険は何か考える。

↓

各学校で定めている登下校時の避難の方法を確認する。

↓

休日にはどんな危険が潜んでいるか考える。

↓

今日の学習で気づいたこと、学んだことを書く。

	学習活動	指導内容および指導上の注意点
導入	①平日の過ごし方をワークシート1に記入する。	ワークシートを配布する。 平日と休日の過ごし方を円グラフで比較し、平日はほとんど学校にいることに気づくよう導く。
	②本時のねらいを理解する。	本時のねらいを提示する。
展開	生活の中にもどのような危険があるか把握し、危険に備える心構えをもとう。	
		自ら危険を探すことで危機意識が持てるようにする。
	③ワークシート2に記入する。 よく使う教室に潜んでいる危険と対処法を考える。	グループごとに考える教室を割り振るが、個人で考える教室を選択させるかし、危険と対処法をワークシートに記入する。 学校で対処法が決まっている場合は、生徒が自ら考えた後に補足で説明する。
	④学校で決められている登下校時の避難方法を確認する。 防災ガイド p.8の「地震発生時の学校の決まりメモ」にポイントを記入する。【個人】	学校で決められている登下校時の避難行動を説明する。 避難行動のポイントを板書し、生徒がまとめやすくする。
	⑤ワークシート3を記入する。 休日、よく行く場所に潜んでいる危険と対処法を考える。	防災ガイド p.8 を参考に学校以外でよく行く場所をピックアップし、考えられる危険と対処法をワークシート3に記入する。 記入が進んでいない生徒には p.8や p.8-9 を参考に伝える。 〈例〉危険：エレベーターに乗っているときに地震が発生し閉じ込められる。 対処法①：全ての階のボタンを押して止まった階に出る。 対処法（発展）：非常用呼び出しボタンで外部に連絡する。
	休日に地震が起きた場合、避難の判断やどこに避難するか等、自分で考えなければならぬことに気づく。	学校以外で地震が発生した場合、避難誘導してくれる先生がいないこと、自分で判断しなければならない可能性が高いことに気づけるよう問いかける。 〈例〉外出中に地震が起こったとき、避難誘導してくれる大人は必ず近くにいるかな？ 周りに誰もいなかったとき、避難の判断は誰がするのかなど。
まとめ	⑥今日の授業を振り返り、ワークシート4に本時のねらいと照らし合わせて学びのまとめを記入する。	